

岩国は負けない！

Ⅱ 岩国訪問記Ⅱ

「ゴゴゴゴオー」・・・物々しい騒音。

3月29日、岩国基地を訪れた私たちの頭上をアメリカ海兵隊の戦闘機が飛び立っていった。私は爆音の大きさに驚きながら、巨大な戦闘機が猛スピードで目の前を飛ぶことに言い様の無い恐怖を感じた。基地の周辺住民はこの恐怖と苦痛を日常的に感じている。その痛みは耐えがたいものであるに違いない。岩国を見ることができたのは半日ほどしかなかったが、岩国基地と米軍再編に伴う痛みが、さまざまなおところからひしひしと伝わってきた。

岩国には愛宕山という地域の人々の信仰の対象

となる歴史ある山とその山のなかに建つ愛宕神社があった。しかし岩国基地の滑走路沖合い移設の埋め立てに必要な土を確保するため切り崩されてしまっ



切り崩された愛宕山。左後方に見える煙突のあたりが山の頂上だった。

た。実際に愛宕山跡地へ行ってみると、ここに山があったのだろっかと思えるほどの広大な更地を残し、仮設された愛宕神社が切なげに無惨な跡地を見下ろし

ていた。この愛宕山の土を使っ
て1キロ先の沖合いまで海が埋め立てられた。この結果、愛宕山と埋め立てられた海域の自然が失われてしまった。

また、愛宕山周辺と埋め立て



案内をしてくださった田村岩国市議

られた周辺海域の生態系が受ける影響も少なくないだろう。しかし、この犠牲を特に気にすることも無く、埋立地では着々と新滑走路の建設が進み、愛宕山跡では米軍再編によって岩国に移住してくる2000人を越える米兵とその家族のための開発が行われている。愛宕山を切り崩すためにダイナマイトが使われ、振動と砂ぼこりが住民を苦しめてきた。工事が行われた7年間の我慢の結果が地域を分断するフェンス付きの米軍住宅では、周辺住民はともやりきれないだろう。米兵による凶悪事件が増していることも追い討ちをかける。

先の岩国市長選挙の結果、岩国市は岩国基地への空母艦載機移駐を受け入れることになってしまった。この結果、米海軍厚木基地から艦載機59機、米海兵隊普天間飛行場から空中給油機など12機、計60機を越える米軍機が平成14年までに岩国基地へやってくる。住民たちの危険と負担は増えるばかりだ。

このようにアメリカ追従の政策が行われ、日本の軍国化が進み私たちの生活が脅かされている情勢のなか、この悪い流れを大きく変える出来事が起きた。4月17日の名古屋高等裁判所が下した自衛隊のイラク派兵差止め訴訟判決である。この判決の中で自衛隊のイラク派兵は憲法9条1項に違反しているという判断とともに、憲法によって規定されている平和的生存権の具体的権利

性を認める判断を行った。この画期的判決を当てはめると、基地周辺に住む住民の頭上を飛び交う戦闘機は、騒音によって住民に精神的被害をもたらすだけでなく、この平和的生存権をも侵しているのは間違いないだろう。米軍再編によるアメリカ軍の基地機能強化を含む岩国基地の問題に対して、この4.17イラク訴訟違憲判決は強力な武器になる。住民が戦闘機の脅威や騒音に悩まされることなく平和に生きる、このあたりまえの平穏な生活を勝ち取っていくために私たちは一層大きな声を上げていかなければならない。

岩国市長選挙後に行われた衆院山口2区の補選では、民主党が自民党を大差で押さえ勝利した。今後の政局を大きく動かす画期的な選挙結果だ。私たちが目指す平和を実現させるために、今こそ意思表示をし、行動するべきであると私は強く思う。

(伊豆)



埋め立てが進む岩国新基地。地盤の補強のため、この塔から砂を注入して補強をしているという。かつては、藻場がある豊かな海だった。